

平成20年度豊島区予算案重点事業
～文化と品格を誇れる価値あるまちへ～



豊島区重点事業セレクト50

～文化と品格を誇れる価値あるまちへ～

文化

1	国際舞台芸術フェスティバル開催(新規)	1p
2	地域ブランドの創出～旧長崎町地域のブランド推進	2p
3	池袋演劇祭20周年・あうるすぽっと開館1周年記念『池袋 わが町』の上演(新規)	3p
4	小熊秀雄作品の収集・調査経費	4p
5	江戸川乱歩の名作「少年探偵団」が子どもに向けた舞台へ～子どものための文化体験プログラム	5p
6	図書館サミット(新規)	6p
7	ICタグシステムの地域館への導入	7p

健康

8	緊急肝炎ウイルス検査事業(新規)	8p
9	夜間小児初期診療事業	9p
10	新型インフルエンザ対策事業(新規)	10p
11	長崎中学校跡地西部スポーツセンター(仮称)の整備	11p

都市再生

12	新ルネサンス構想(新・池袋副都心再生プラン)策定事業(新規)	12p
13	池袋駅及び駅周辺整備	13p
14	池袋駅西口駅前街区街づくり推進事業(新規)	14p
15	池袋駅西口駅前広場改修	15p
16	椎名町駅周辺整備事業(2事業)	16p
17	学校跡地本格活用基礎調査(新規)	17p
18	新庁舎整備の検討	18p
19	コミュニティバス導入計画の策定	19p
20	新たな地域交通システムのあり方に関する調査経費	20p
21	副都心線開通記念・雑司が谷開設記念イベント(新規)	21p
22	副都心線東池袋新駅設置促進事業(新規)	22p

環境

23	豊島区環境基本計画の策定(新規)	23p
24	風とみどりの道構想策定事業(新規)	24p
25	クールシティ推進事業(新規)	25p
26	マンション資源集団回収事業(新規)	26p
27	生ごみ発電モデル事業(新規)	27p
28	環境にやさしい商店街景観づくり事業(2事業・新規)	28p
29	区立小・中学校校庭芝生化(新規)	29p

子育て・教育

30	保育ママ事業(新規)	30p
31	診療所併設型病後児保育事業(新規)	31p
32	子育て支援ガイド作成事業(新規)	32p
33	出産前後の育児環境支援(2事業・新規)	33p
34	小中学校改築の前期詳細計画策定(新規)	34p
35	西池袋中学校建て替え事業経費(新規)	35p
36	小中学校国語力向上事業(新規)	36p
37	区立幼稚園児幼児期道徳性育成事業(新規)	37p

福祉

38	高齢者元気あとし事業(新規)	38p
39	介護保険不正事業者対策(2事業・新規)	39p
40	障害者の就労支援事業(3事業・新規)	40p
41	福祉基盤整備事業(障害者・新規)	41p

安心・安全

42	ターミナル駅前滞留者対策訓練の実施(新規)	42p
43	地域防犯力向上設備助成事業	43p
44	橋梁点検調査	44p

参加協働など

45	大学との協働による「としまコミュニティ大学」	45p
46	区民ひろば運営協議会自立支援事業(新規)	46p
47	ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)推進事業(新規)	47p
48	区民税の電話納付案内業務委託	48p
49	豊島区狭小住戸集合住宅税(ワンルームマンション税)の調査・検討(新規)	49p
50	「豊島区ベストパフォーマンス金の臍賞」の選定と表彰(新規)	50p

事業1 国際舞台芸術フェスティバル開催(新規)

“演劇の街”「池袋」を世界へ発信！！

事業費 10,000 千円

【詳細】文化デザイン課

事業概要

毎年2～3月に「にしすがも創造舎」等で行われてきた「東京国際芸術祭」をさらに発展させた舞台芸術フェスティバルを開催します。

区内数か所を会場に国内外から選りすぐりの舞台芸術団体を招聘し、演劇・ダンスなどを上演します。日本を代表する国際的な舞台芸術フェスティバルをめざし、“演劇の街”「池袋」を国内外にアピールします。

◎開催/H21年2～3月

◎会場/にしすがも創造舎、あうるすぽっと、東京芸術劇場等

◎主催/NPO法人アートネットワーク・ジャパン、東京都、豊島区、(財)としま未来文化財団【予定】



「東京国際芸術祭 2007」から「雲。家。」



「東京国際芸術祭 2007」から「囚われの身体たち」

背景(経過)

区には、池袋を中心に東京芸術劇場、サンシャイン劇場、シアターグリーン、あうるすぽっと(区立舞台芸術交流センター)など大小の劇場が多くあり、また舞台芸術学院や劇団等の演劇活動が昔から盛んで、演劇・芸能分野において多くの逸材を輩出してきました。

「東京国際芸術祭(TIF)」は、1988年の「東京国際演劇祭'88池袋」を起点に、90年、92年と継続。95年には「東京国際舞台芸術フェスティバル」、2002年から現在の名称で開催されています。

主催のNPO法人アートネットワーク・ジャパンは、区から無償で提供を受けた旧朝日中学校施設(西巢鴨4-9-1)を活用し、文化創造・発信の新たな拠点である「にしすがも創造舎」を運営し、演劇等の稽古場運営のほか、音楽・ダンス・アート等、さまざまなワークショップや地域交流事業を活発に展開しています。

目的(ねらい)

国際的な舞台芸術フェスティバルの開催により“演劇の街”「池袋」を国内外にPRし、文化芸術の振興と文化を機軸としたまちづくりを推進します。

事業2 地域ブランドの創出～旧長崎町地域のブランド推進

池袋モンパルナスを再び 地域文化で活性化を！！

事業費	2,930 千円
拡充分	2,930 千円

事業概要

1930年代、現在の長崎・千早・千川地域（旧長崎町）は「アトリエ村」「池袋モンパルナス」と称されていました。

この歴史的な地域にある美術文化資源、中でも千早地域に昨年11月開館した「区立熊谷守一美術館」を拠点に、旧長崎町地域のブランド化を推進し、定住者や来街者の増加など、まちのさらなる活性化を図ります。

- ◎地域文化資源の発掘
- ◎地域住民の意向調査
- ◎地域ブランド推進の方向性検討



区立熊谷守一美術館(千早 2-27-6)

【詳細】文化デザイン課

背景（経過）

1930年代から戦前にかけての一時期、長崎・千早・千川地域には、アトリエ付き賃貸住宅が多く建てられ、美術学生や新進気鋭の画家・彫刻家・作家たちが住み、「アトリエ村」と呼ばれました。また、詩人で画家の小熊秀雄によって、当時の池袋周辺の風景をパリのセーヌ川左岸になぞらえて「池袋モンパルナス」と命名されました。

現在、この地域は「アトリエ村資料室」、「峯孝作品展示室」があり、H19年11月には、「区立熊谷守一美術館」が開館、また、事業では「新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館」が行なわれるなど、多くの美術文化資源があります。

目的（ねらい）

長崎・千早・千川地区が持つ美術文化資源を活用したブランドづくりにより、まちのさらなる活性化を図ります。

事業3 池袋演劇祭 20 周年・あうるすぽっと開館 1 周年記念公演

『池袋 わが町』の上演(新規)

劇場都市としま、演劇に親しめるまち
No1 をめざします！！

事業費 10,000 千円

事業概要

池袋演劇祭 20 周年、また、劇場「あうるすぽっと」の開館 1 周年を記念し、“演劇の街”「池袋」を広く PR するため、ジェームス・三木氏の脚本・演出によるオリジナル作品『池袋 わが町』を上演します。俳優寺田農氏の出演のほか、主役の若者 2 名（男女各 1 名）をオーディションにより決定します。

◎公演名／『池袋 わが町』

◎公演日程／9 月 19 日（金）～23 日（火・祝）
全 6 公演

◎公演会場／「あうるすぽっと」（東池袋 4-5-2）

◎主催／豊島区舞台芸術振興会、豊島区、
（財）としま未来文化財団

《実施スケジュール》

◎2 月～／オーディション参加者募集

◎5 月／主役 2 名決定

◎7 月／ジェームス・三木氏のトークショー

◎8 月～／稽古開始

◎8 月中／区民参加による体験型ワークショップ

◎9 月 17 日／劇場・バックステージ見学会

◎9 月 19～23 日／公演



第 19 回池袋演劇祭 優秀賞 劇工房 月ともぐら

【詳細】文化デザイン課



第 19 回池袋演劇祭 大賞

東京アンテナコンテナ mix ミルク・ブラザーズ

背景（経過）

区内には、池袋を中心に東京芸術劇場、サンシャイン劇場、シアターグリーン、あうるすぽっと（区立舞台芸術交流センター）など大小の劇場が多くあり、また舞台芸術学院や劇団等の演劇活動が昔から盛んで、演劇・芸能分野において多くの逸材を輩出してきました。

池袋演劇祭は、“演劇の街”としての地域特性を活かし、地域文化の発展を通じて街のイメージアップと活性化を図る目的で H 元年から毎年 9 月の 1 ヶ月間、区内の各劇場を舞台に多くの劇団が競演する演劇イベントです。

目的（ねらい）

『池袋 わが町』を上演することで、“演劇の街”「池袋」を広く内外に PR し、文化芸術の振興とまちの活性化を図ります。

また、今後は、この作品を区と友好都市を締結している各市町村との提携公演に向けて、検討を進めていきます。

事業4 小熊秀雄作品の収集・調査経費

区固有の文化資源を検証し、
文化度向上に役立たせます！！

事業費	13,108 千円
拡充分	13,108 千円

事業概要

H19 年度に設置した「小熊秀雄作品収集委員会」により、作品の収集方針や購入作品の決定がなされました。H20、21 年度に小熊秀雄の絵画作品を購入し、「区立郷土資料館」「アトリエ村資料室」「区立熊谷守一美術館」等と連携しながら、これら作品を広く公開していきます。

◎H20 年度は約 70 点を、21 年度は約 40 点を購入し、それぞれ企画展を実施します。

【詳細】文化観光課



小熊秀雄

目的（ねらい）

小熊秀雄の作品を保存、研究し、その歴史や芸術的な意義を検証することで、区固有の文化的アイデンティティを形成し、区の文化度を高め、区民が誇れるまちづくりに寄与することを目的とします。

背景（経過）

1930 年代から戦前にかけての一時期、長崎・千早・千川地域には、アトリエ付き賃貸住宅が多く建てられ、美術学生や新進気鋭の画家・彫刻家・作家たちが住み、「アトリエ村」と呼ばれました。また、詩人で画家の小熊秀雄によって、当時の池袋周辺の風景をパリのセーヌ川左岸になぞらえて「池袋モンパルナス」と命名されました。

区の文化力を高め、価値あるまちづくりのためには、その中心人物であった小熊作品の収集、保存、研究は不可欠であることから、H19 年度に「小熊秀雄作品収集委員会」を設置しました。

事業5 江戸川乱歩の名作「少年探偵団」が子どもに向けた舞台へ ～子どものための文化体験プログラム

文化資源に触れ、子どもの感性、創造力を鍛えます！！

事業費	8,979 千円
拡充分	7,500 千円

事業概要

区において約 50 年にわたり執筆活動を行った江戸川乱歩の足跡は、区の貴重な文化資源であり、乱歩が残した作品を題材にした演劇の上演や関連ワークショップを開催します。

1 演劇公演「少年探偵団 ～怪人 20 面相を追え(仮)」
区にゆかりのある作家江戸川乱歩の代表作「少年探偵団」を戯曲化し、「なぞとき」をキーワードに大人から子どもまで楽しめる質の高い演劇作品を制作し上演します。

2 子どもとつくる舞台

子どもたちがまちを探検し、地域資源を子どもの視点で捉え、舞台作品を創作し、発表公演を行ないます。

- ◎主催／としま文化創造プロジェクト実行委員会
(豊島区、豊島区教育委員会、NPO 法人アートネットワーク・ジャパン、NPO 法人芸術家と子どもたち)
- ◎開催場所／にしすがも創造舎特設会場 (旧朝日中学校体育館・西巢鴨 4-9-1)
- ◎開催期間／8 月中旬～下旬



にしすがも創造舎特設会場

【詳細】文化観光課



「オズの魔法使いへようこそ」

背景(経過)

NPO 法人が廃校跡地を活用して運営する「にしすがも創造舎」は、地域の文化拠点として各種事業を行っています。H19 年度は「オズの魔法使いの世界へようこそ」と題し、演劇公演や関連ワークショップを約 1 ヶ月間におよび開催し、子どもから大人まで約 2000 名を動員しました。今後も文化・芸術の交流・発信拠点として、地域の活性化につなげるためのプログラムの実施が大いに期待されています。

目的(ねらい)

将来の文化の担い手である子どもたちが、優れた舞台芸術に触れ、体験することで豊かな人間性を育みます。また、地域の歴史、文化資源を伝えることで、郷土への誇りと愛着をもたらします。

事業6 「図書館サミット(仮称)」(新規)

豊島区から全国へ活字文化と地域文化の未来を拓く

～「日本の図書館を元気づける」マニフェストを発信～

事業費 2,500 千円

【詳細】 中央図書館

事業概要

国立国会図書館の後援をはじめ、幅広い関係機関・団体と連携し、全国の特徴ある図書館等(図書館に限らず出版社・文学館など特色を持って情報発信する機関も含む)に呼びかけてサミットを開催します。

サミットでは、現状への危機感を共有し、文字・活字文化の振興や、図書館と地域文化の未来像等について意見交換をし、マニフェストを掲げ全国へ発信していきます。

マニフェスト採択後、各参加団体は、「活字文化の維持発展」「『知』の全体性・総合性の確保」に向けて未来を切り拓く姿勢をアピールしていきます。

また、各参加団体が、それぞれの活動内容を情報交換することにより、特色ある活動や地域文化発信の新たな可能性を追求していきます。

◎サミットの内容

- 基調講演(国立国会図書館長等)
- 参加団体による活動のプレゼンテーション
- パネルディスカッション
- 分科会での検討・報告
- マニフェストの採択 など

目的(ねらい)

電子情報の氾濫や書物離れ、低迷する出版事情など、活字文化の危機を共通認識し、人類の知的財産・文化活動の基礎となる書物の価値と読書の意義を再確認し、本を愛する精神を広めます。

また、あわせて、地域固有の文化資源・文化活動の発見・発信の場とすることをめざします。



サミット会場/自由学園 明日館

背景(経過)

H17年に「文字・活字文化振興法」が成立し、文字・活字文化の振興に関する基本理念が定められ、国・地方公共団体の責務が明らかにされました。

この法の趣旨を実現するためには、公立図書館やその他の文化施設の活性化と連帯が不可欠です。そこで、新中央図書館をオープンして間もない豊島区が中心となって、参加団体とともに、現状に対する共通認識と打開策を模索していきます。

《実施スケジュール》

- ◎11月/サミット開催
- 「マニフェスト」の採択

事業7 IC タグシステムの地域館への導入

地域館全館 IC タグ蔵書管理導入！
図書運営の効率化を推進！！

事業費	70,552 千円
拡充分	22,243 千円

事業概要

今後、効率的な蔵書管理を進めていくため、全地域館にも計画的に IC タグシステムを導入します。

蔵書に IC タグを装備し、自動貸出機、ゲートの設置を行い、効率的な蔵書管理を進めます。

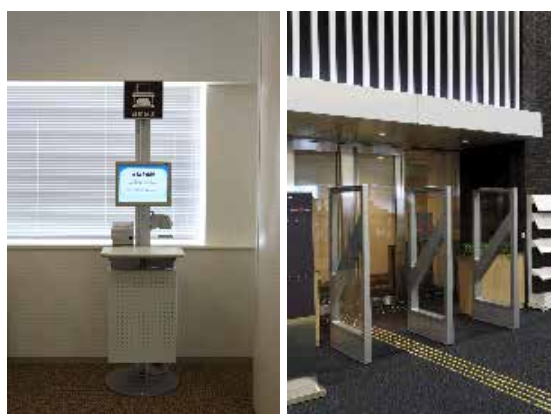
IC タグシステムを導入することによって、自動貸出機で利用者自身が貸出手続きをできるようになり、不正持出しも防止できます。

H20 年度目白図書館のリニューアルオープンにあたり、改修工事期間を利用して、目白図書館蔵書に IC タグを装備します。

【詳細】中央図書館



IC タグ



自動貸出機

エントランスゲート

《実施スケジュール》

◎H20 年度／目白図書館（図書 8 万冊）

※大規模改修工事後の移転時に実施

◎H21 年度／上池袋図書館

（図書 10 万冊、視聴覚資料 7 千件）

◎H22 年度／池袋図書館（図書 11 万冊）

◎H23 年度／千早図書館（図書 8 万冊）

※平和小跡地複合施設への移転時に実施

◎H24 年度／巣鴨・駒込統合新館（図書 21 万冊）

※統合新館への移転時に実施

《目白図書館リニューアルオープン》

事業費 11,794 千円

目白図書館（S56 年開館）は、開館から 25 年余りを経過し、建物・設備の老朽化が激しくなっていました。H19 年 10 月より、約 1 年をかけて改修工事に着手し、新たな利用者ニーズに対応できる図書館をめざします。

◎開館時期／H20 年 9 月頃

◎改修内容／エレベータの設置、設備の更新、
地下区民集会室の充実、だれでもトイレの整備、読書室の環境改善

背景（経過）

H19 年 7 月に、中央図書館が東池袋 4 丁目再開発地区にオープンし、中央館としては、23 区内初の IC タグに対応する図書館システムを導入しました。図書資料、AV 資料に IC タグを装備し、図書館の運営の効率化を図っています。

目的（ねらい）

IC タグにより蔵書管理をすることによって、運営の効率化を図ります。

事業8 緊急肝炎ウイルス検査事業(新規)

肝炎患者の早期発見、早期治療のために

事業費 8,557 千円

事業概要

今般の「薬害C型肝炎問題」を契機として、肝炎一般に対する関心の高まりを受けて、国は、緊急肝炎ウイルス検査事業を実施することとしました。

これを受けて、区では、早期発見・早期治療のため、区民の利便性を考慮し、医療機関での無料の検査を実施します。

- ◎対象者／20歳以上の区民（過去に肝炎ウイルス検査を受けていない方）
- ◎検査費用／無料
- ◎検査機関／区内医療機関（豊島区医師会）

【詳細】健康担当部

背景（経過）

人の血液を原料につくられた薬「フィブリノゲン製剤」がC型肝炎ウイルスに汚染されていたため、薬を与えられた患者がC型肝炎に感染した「薬害C型肝炎問題」は大きな社会問題となっています。国は責任を認め、患者ら被害者の全員一律救済に向けた法律案が可決しました。

目的（ねらい）

患者の早期発見、早期治療を目的に、受診者の自己負担なしに肝炎ウイルス検査を実施します。

事業9 夜間小児初期診療事業

平日夜間の子どもの急病に対応！！

事業費	16,308千円
拡充分	7,504千円

事業概要

区は都立大塚病院と医師会と連携し、H19年12月より、都立大塚病院内に「豊島子ども平日準夜間救急クリニック」を開設し、平日の週3日間小児初期救急に対応してきました。20年度からは平日週5日に向けて、事業の充実を図ります。

23区内で都立病院が診療場所として使われるのは初めてであり、医師会の医師による初期診療で重症と診断された場合は、そのまま2次救急病院に指定されている同病院へ入院し、治療を受けられます。

◎対象／15歳以下の急病患者

◎診療時間／月～金 20時～23時

※受診の際は、健康保険証・子ども医療証持参

◎場所／都立南大塚病院1階「救急外来診察室」
(南大塚2-8-1)

【詳細】健康担当部

背景（経過）

少子化を背景として、都市の小児人口が減少するとともに、小児科医師や小児科医療機関も減少傾向にあります。一方で、夜間における小児患者の救急搬送件数は年々増加傾向にあり、小児の救急医療需要はますます高まっています。

目的（ねらい）

平日準夜間における、小児初期救急医療体制を確保することにより、区民の安心ネットワークと子育て支援環境を整備します。



事業10 新型インフルエンザ対策(新規)

大流行に備え、感染拡大防止に向けた体制整備を着実に！！

事業費 18,498 千円

事業概要

「新型インフルエンザ」発生時のまん延防止対策として、H19年5月に策定した「新型インフルエンザ対策行動計画」に基づき、庁内関係部局、豊島区医師会・薬剤師会、東京消防庁等の関係機関との協力体制の充実・強化を図るとともに、防護服等を備蓄し、健康危機管理対策を効果的に推進していきます。

- ◎対策訓練実施／防護服の着脱、陰圧テントの設営、発熱センターでの診察、搬送など関係機関も参加して実地訓練や図上訓練を実施
- ◎防護服等の備蓄／発熱センター、発熱外来開設等に向けた防護服4,500セット他の確保



昨年11月の実地訓練

【詳細】健康推進課



背景(経過)

新型インフルエンザが出現した場合、世界規模での大流行(パンデミック)が懸念されています。世界保健機関(WHO)や世界各国では行動計画を策定し対策を講じています。WHOは、現在の発生段階をフェーズ3(新型インフルエンザ未発生)としています。発生に備えて、区でも、国や東京都との協力・連携をはじめ行動計画等を策定し、訓練実施や防護服等の備蓄など必要な対策を推進しています。

目的(ねらい)

発生時の感染防止と社会機能の破綻を回避するための対策を図ります。

事業11 長崎中学校跡地西部スポーツセンター(仮称)の整備

民間活力の活用で、スポーツと防災機能を備えた公園整備！

事業費 23,867千円

【詳細】施設計画課

事業概要

整備にあたっては、国庫補助制度等の適用や、定期借地権、PFI など民間活力の活用による事業手法を検討し、整備コストの縮減を図ります。H19 年度内に整備基本構想(案)についてパブリックコメント等を実施し、20年度の早期に基本構想を策定します。その後、整備手法の決定し、事業に着手します。

コンセプトは、スポーツと防災機能を備えた西部地域の拠点となる公園の整備です。

◎所在地／南長崎 4-13-22 (旧長崎中学校)

◎敷地面積／13,109 m²

◎施設の機能(予定)

- ①スポーツ機能(多様なスポーツ機能を有する屋内・屋外施設)
- ②防災機能(ミニ備蓄倉庫などの防災設備)
- ③公園機能(緑地、広場、園路など)

《実施スケジュール》

◎6月／整備手法の決定



施設整備の配置イメージ(西部スポーツセンター)

背景(経過)

H18年3月策定の「豊島区基本計画」における学校跡地の活用に関する方針に基づき、長崎中学校跡地に西部スポーツセンターを整備します。

目的(ねらい)

西部スポーツセンター整備により、区民の健康増進や生涯スポーツ活動の充実・推進を図ります。また、定期借地権、PFIなどの民間活力による事業手法を検討することで、新たな財政支出(一般財源)の軽減を図ります。

事業12 新ルネサンス構想(新・池袋副都心再生プラン)策定事業(新規)

池袋副都心の10年後の姿を見据え、街づくりのガイドラインを！！

事業費 14,500千円

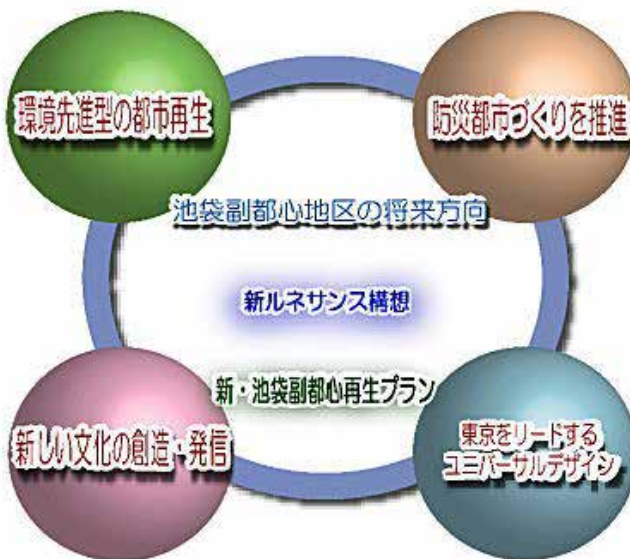
事業概要

都市再生と文化・環境を機軸とした池袋副都心の概ね10年後の「将来像」「都市再生の整備目標」、都市再生緊急整備地域の指定も視野にいたした「街づくりの方向性(戦略)」等を明記した「新ルネサンス構想(新・池袋副都心再生プラン)」を策定します。都市再生の重要なテーマのひとつである「都市環境対策」を強力に推進するための基本的な計画もあわせて検討します。

また、造幣局東京支局とその周辺地域において総合的な有効活用を図るための事業スキーム等の検討とまちづくりガイドライン素案の策定、池袋駅周辺地区整備の検討など、戦略やプロジェクトを実現する取り組みも積極的に進めます。

《実施スケジュール》

- ◎H20年度／「新ルネサンス構想」策定
- ◎H21年度／「具体的プロジェクトに関わる街づくりのガイドライン」策定



池袋における都市再生のテーマ

【詳細】都市計画課

背景(経過)

池袋副都心地域が東京北西部のターミナル拠点としてのポテンシャルを活かし、東京圏での機能・役割の一角を担い、その特性を世界に向けて発信しながら成長を続けるために、池袋副都心の将来像を明確に示していく必要があります。

H16年度に策定した池袋副都心再生プランでは、今後取り組む事項を整理しました。都市計画道路整備の進捗や地下鉄副都心線の開通等、池袋の再生が大きく動きだした今、都市再生と環境との調和を重視し、人への優しさと文化を機軸とした個性ある再生戦略を打ち出し、具体的な実行プランを推進する必要があります。

目的(ねらい)

成熟した都市型社会への移行が進むなかで、業務機能ばかりでなく「環境との共生」や「文化」、「ものづくり」など、多様な機能の集積による魅力あふれる都市の実現を急ぎ、継続・発展する池袋副都心をめざします。

また、民間事業者とも「目標の共有化」を図り、都市再生を「総力戦」で進める体制づくりを行ないます。

事業13 池袋駅及び駅周辺整備事業調査

池袋駅から街中への回遊性をアップ！
バリアフリー、サイン、東西デッキを検討！

事業費	19,522 千円
拡充分	19,460 千円

事業概要

池袋駅及び駅の周辺について、課題を整理するとともに池袋副都心の街づくり目標からつながら、駅と駅周辺の改善整備を論議することから、都市再生緊急整備地域指定との連動を加味して、引き続き検討します。

〈調査・検討項目〉

- ◎鉄道各線からのスムーズな乗り換え
- ◎東西を結ぶ上空の自由通路を確保し、地下コンコースの負担を軽減
- ◎階段等のバリアフリー
- ◎駅周辺に滞留する来街者をスムーズに明治通りを通過させるための地下・地上部の改善
- ◎災害時における安全な避難経路の確保
- ◎駅及び周辺サイン計画

【詳細】都市開発課



現在の池袋駅周辺

背景（経過）

池袋駅は4社8線の鉄道路線が乗り入れ、H20年には地下鉄副都心線も開通します。現在の駅地下コンコースは乗降客が交錯し、終日滞留が起きており、また施設のバリアフリー化への対応も遅れています。さらに、池袋は鉄道を中心に発展を遂げてきた歴史から、鉄道路線により東西が分断され、街を結ぶ歩行者動線の回遊性にも課題があります。

H19年度に池袋駅及び駅周辺整備検討委員会を設置し、議論を進めています。

検討委員の構成：学識経験者や鉄道事業者、駅周辺百貨店の関係者、国、東京都、区。

目的（ねらい）

安全かつ快適に駅施設等を利用でき、駅から街中へと歩行者の回遊性が広がるように、施設のバリアフリー化やサイン整備、鉄道上空の東西連絡デッキの設置などに関する計画を策定します。



北側から駅を望む（模型）

事業14 池袋駅西口駅前街区街づくり推進事業(新規)

池袋駅西口の再生に向けて、協議会発足へ！！

事業費 5,500 千円

事業概要

H19年12月から実施している西口まちづくり勉強会において提案されたまちづくりイメージ素案をたたき台として、地権者等と意見交換をしながら池袋駅西口地区のまちづくりを検討していきます。

1 協議会の立ち上げ、運営

H20年度は、池袋駅西口地区のまちづくりの方向性を地権者、地元と共に検討するための協議会を立ち上げ、運営します。

◎地権者の意向把握のためのアンケート、ヒアリング

◎広報・PR活動、将来イメージ及び事業化スケジュールの検討

◎地区概況調査、地区整備の方向性調査

2 池袋駅西口地区再開発構想(仮称)の策定

協議会での調査、検討を重ねることにより、西口地区のまちづくりの方向性を確認し、池袋駅西口地区再開発構想(仮称)を策定します。構想に沿った再開発事業を推進していきます。

《実施スケジュール》

◎H20年度/協議会発足をめざす



まちづくりイメージ素案のひとつ

風格とにぎわいあふれるまちをめざす

【詳細】都市再生担当



池袋駅西口地区の現状。老朽化したビルが密集している。

背景(経過)

池袋駅西口地区は、老朽化した建物が多く、敷地も細分化され、まちのにぎわいや魅力を生み出しにくくなっています。これまで同地区の早急な整備の必要性が叫ばれながら、実現に至っていませんでした。

今年6月の副都心線開通を控え、都市間の競争が激化していくなか、環境や防災に配慮した、池袋副都心にふさわしい「風格のある商業・オフィス街の形成」「駅東西のバランスの取れた発展」を図るために、西口地区の都市再生が今、求められています。

目的(ねらい)

池袋副都心にふさわしい風格と存在感のあるまちへの誘導を図ります。また、都市再生緊急整備地域の指定との連携も視野に入れ検討します。

事業15 池袋駅西口駅前広場改修

事業費 100,000千円

池袋西側の玄関口を、人・環境にやさしい広場に改修！！

事業概要

主な改修は、歩行者空間の拡大、歩道のバリアフリー化、交番の移設、タクシープールの移設、照明、植栽等の道路施設の改修です。20年度から実施計画に基づき、地元住民、関係機関との協議を引き続き行いながら改修工事に着手します。

◎駅前広場改修工事面積／約8,900㎡。

本体部分（タクシープール含む）：約5,400㎡

バスターミナル部分：約3,500㎡

《実施スケジュール》

◎H20年度／実施設計、広場整備工事（タクシープール移設工事、バスターミナル分散化工事）

◎H21年～22年度／広場整備工事

【詳細】道路整備課

背景（経過）

池袋駅は1日の乗降客数、約260万人を数える新宿に次ぐ大型ターミナルです。西口駅前広場は、東京芸術劇場、池袋西口公園野外ステージなどのイベント会場の玄関口でもあり、多くの来街者が利用する重要な公共空間です。

S43年の戦災復興土地区画整理事業により整備され、その後、62年に歩道や植栽などの整備を行った後20年が経過し、景観的、機能的にも多くの課題を抱えています。

H18年度は区民ワークショップ等を開催し、またH19年10月にはユニバーサルデザイン検証実験を行ないました。

目的（ねらい）

池袋副都心に相応しい池袋駅西口駅前広場とするため、歩行者空間を拡大し、ユニバーサルデザインの広場改修を行います。駅から街への連続性を高め、区民や来街者が快適に、安全に回遊できる街づくりを進めます。



駅前広場改修イメージ

事業16 椎名町駅周辺整備事業(2事業)

鉄道事業者と協働し駅の回遊性、
利便性をアップ！

事業費 45,300千円

【詳細】都市開発課

事業概要

西武池袋線椎名町駅の駅舎改善（バリアフリー化）
とともに、鉄道を横断する自由通路や椎名橋下空間を
活用した駅前広場、駐輪場等の整備を行ないます。

この事業は、国の補助制度である「都市交通システ
ム整備事業」と「鉄道駅総合改善事業」の対象事業と
して、H20年度から本格的にはじまります。

I 都市交通システム整備事業

（自由通路・駅前広場整備）(38,700千円)

- ◎椎名橋下駅前広場の整備
- ◎立体横断施設の整備

II 鉄道駅総合改善 (6,600千円)

- ◎駅舎全面改善（駅バリアフリー化）

《実施スケジュール》

- ◎H20年度／立体横断施設・駅舎、広場設計
- ◎H21～23年度／立体横断施設・駅舎、広場工事



椎名町駅周辺整備予定地



建設中の椎名橋と近接する踏切と駅

背景（経過）

椎名町駅周辺は、放置自転車や狭あ
いな駅前広場、近接する開かずの踏切
の問題とともに、老朽化しバリアフ
リー化していない駅舎等、多くの課題が
あります。現在、中央環状新宿線の整
備に伴い、環状6号線の椎名橋を架け
替え整備中であり、これを機会に課題
解決に向けて進めていきます。

目的（ねらい）

橋下の自転車駐輪場・広場の整備に
加え、椎名町駅舎の改築や鉄道の立体
横断施設を区と鉄道事業者が協働し
て、一体的に整備を行なうことにより、
駅周辺の総合的な整備をめざします。
このことにより、駅利用者の利便性の
飛躍的な向上や、鉄道路線によって分
断されている駅周辺の回遊性の向上と
地域の活性化が期待できます。

事業17 学校跡地本格活用基礎調査(新規)

暫定活用している学校跡地の本格活用に向けた検討調査を実施します！

事業費 7,500 千円

【詳細】施設計画課

事業概要

3つの学校跡地の用地基礎調査（測量等）及び本格活用に向けた検討調査を行います。

学校跡地名	所在地	暫定活用の内容	本格活用の方針
旧第十中学校	千早 4-8-19	施設開放事業、千早四丁目自転車保管所、埋蔵文化財の保管等	野外スポーツ施設の整備
旧千川小学校	要町 3-54-16	施設開放事業	運動機能に配慮した近隣公園の整備
旧朝日中学校	西巢鴨 4-9-1	国地域再生計画の認定を受け、NPO 法人に貸付	東部スポーツセンター（仮称）の整備



旧第十中学校

背景（経過）

H18年3月策定の「豊島区基本計画」において、学校跡地の活用方針を示しています。そのうち、3か所の第十中学校、千川小学校、朝日中学校跡地については、本格活用の年次計画化がされていないため、その具体化が課題となっています。

目的（ねらい）

現在、暫定的に活用されている学校跡地の本格活用の計画化を図ります。

事業18 新庁舎整備の検討

新庁舎整備で、区民サービスの向上と、環境にやさしい池袋副都心再生をめざします！

事業費	29,470千円
拡充分	9,500千円

事業概要

新庁舎整備の早期実現に向け、利便性の高い窓口システムの構築や区民サービスの向上策、防災・環境対策の強化、さらに効率的な事務レイアウトなどを内容とする新庁舎整備基本計画を、区民の意見を聞きながら策定します。

また、池袋副都心の再生のリーディングプロジェクトとなるよう、検討を進めます。

1 新庁舎整備基本計画の策定

- ◎新たな窓口システムの構築や防災・環境に配慮した新庁舎機能の検討
- ◎各課の業務形態を調査の上、レイアウトを含めた執務環境プランの作成
- ◎区民参画の会議体による新庁舎の検討

2 現庁舎地区周辺まちづくり方針の検討

新庁舎整備に伴い予定している現庁舎地区の民間活用（一部または全部）が、副都心エリア全体の賑わいの創出の契機となるよう、現庁舎地区周辺まちづくり方針の策定に向けて検討を進めます。

- ◎現庁舎地区周辺まちづくり方針の検討会議の設置

《実施スケジュール》

- ◎H20年度新庁舎整備基本計画策定。都市計画決定をめざす。

【詳細】庁舎建設室

背景（経過）

S36年に竣工した本庁舎は、築46年と現在23区のなかで最も古く、老朽化や狭隘化により、区民サービスの改善に支障をきたしている状況となっています。

新庁舎の整備に向けて、H18年5月に、現庁舎地区（東池袋1丁目）と旧日出小地区（南池袋2丁目）の2か所を新庁舎の候補地とする「新庁舎整備方針〔素案〕」を策定し、6～7月に区民説明会等、パブリックコメントを実施しました。

H19年度は、新庁舎の候補地のひとつである旧日出小地区の市街地再開発区域の確定に向けて取り組んでいます。確定後、2つの候補地の整備経費を含め計画の修正を行い、新庁舎整備方針〔案〕として策定する予定です。

目的（ねらい）

区民サービスの向上と災害時の拠点機能の強化、さらに池袋副都心の起爆剤となるよう新庁舎を整備します。

事業19 コミュニティバス導入計画の策定

区内の回遊性向上に一役。
「住みたいまち 訪れたいまち」へ

事業費 8,500 千円

事業概要

H19年9月より「新たな地域公共交通システムのあり方検討委員会（委員長：水島正彦副区長）」を設置しました。委員会では、副都心池袋の魅力・回遊性を高め、地域内移動の利便性の向上を図るため、コミュニティバス導入について検討をしています。

H20年度は、福祉、子育て、都市再生等、総合的な視点からコミュニティバスのコンセプト及び運行計画の洗い出しや、他の自治体の状況・経営状況等の調査を行います。これに基づき導入の必要性を含めて方針をまとめます。

導入が確定した後は、区民、商業事業者、交通事業者との調整、路線設定の検討など事業化に向けて体制を整えていきます。

【詳細】企画課

《実施スケジュール》

- ◎4～5月／コミュニティバス導入計画策定調査
- ◎6月頃／導入方針決定、
導入確定の場合は、事業化準備調査へ

背景（経過）

未来戦略推進プランに示す「住みたいまち、訪れたいまち」を実現するために、福祉政策やユニバーサルデザイン、地域活性化等の考え方に基づく地域内移動手段を確保する必要があります。

目的（ねらい）

導入にあたっての課題を整理し、具体化を図ります。

事業20 新たな地域交通システムのあり方に関する調査経費

「環境」「福祉」「観光」。
池袋～世界へ LRT 整備構想策定へ

事業費 10,000 千円

事業概要

LRT は超低床式のため、環境にも人にも優しい新型の路面電車として注目されています。

池袋東口駅前と都電荒川線・雑司が谷を結ぶ路線を前提として LRT 整備構想を策定し、これをもとに、環状5の1号線整備やグリーン大通りの交通処理、電車車庫の整備など、関係機関との調整・協議を進め、早期実現を図ります。

都電荒川線との連携により、西巢鴨・雑司が谷・高田方面から池袋への交通アクセス機能を高めます。

【詳細】企画課

背景（経過）

街の活性化による都市再生とともに、重点政策のひとつ「環境」に配慮した、環境への負荷が少ない新交通システムの導入に向けて動き出します。都市再生のシンボルとして、公共交通、環境、観光、ユニバーサルデザインを全国に発信する、東京で一番の LRT (Light Rail Transit) を池袋副都心に整備します。

目的（ねらい）

「LRT 整備構想」を策定し、LRT 導入に伴う課題について関係機関等との協議・調整を実施し、実現化に向けた方策を検討します。

＜LRT 整備構想のための検討課題＞

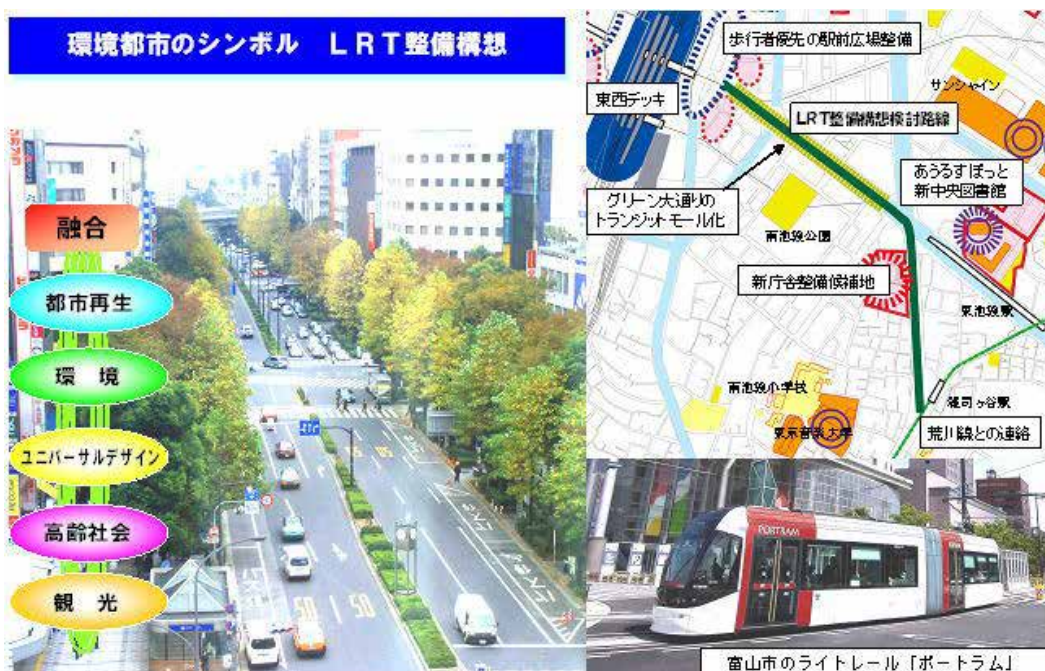
- ◎LRT 整備のコンセプト整理
- ◎都電荒川線との連携が可能なルートを選定
- ◎車両、車庫、変電施設、整備施設等、各種課題の整理

＜LRT 整備構想策定調査＞

- ◎計画条件の検討、導入に伴う道路交通への影響、路線計画、事業計画について調査・検討します。

＜実施スケジュール＞

- ◎H20 年度／副都心における「LRT 整備構想の策定」
- ◎H21 年度以降／関係機関等との協議・調整



事業21 副都心線開通記念・雑司が谷開設記念イベント(新規)

昭和風情とバロック音楽の似合うまち 雑司が谷へ ようこそ！！

事業費 3,000千円

事業概要

副都心線開通と雑司が谷駅の新設を記念して様々なイベントを実施する地元商店街等を支援します。

【詳細】生活産業課

1 祝賀パレードの実施

JR 目白駅から副都心線「雑司が谷駅」間を実施。

2 写真コンテスト

募集は6月。作品を審査のうえ、入賞作品を決定し、雑司が谷駅に展示。

◎「雑司が谷」のイメージを象徴する作品

◎地下鉄開通の祝賀行事を実感できる作品

このほかにユニバーサルホッケー、記念Tシャツの販売等を行ないます。

3 副都心線開業記念メトロ・コンサート

毎年6月に開催している「目白バ・ロック音楽祭」等と提携し、コンサートを開催します。

東京メトロ13号線の路線名称が
「副都心線」に決定!!

～あわせて新設した7駅の名称も決まる～



背景（経過）

東京メトロ「副都心線」は、鉄道ネットワークの充実・拡大を目的とした路線で、池袋～渋谷間（延長 8.9km）が H20 年 6 月に開業予定です。本区内では「雑司が谷駅」が新たに建設されました。これまで、ターミナル駅とのアクセスに難があった駅周辺への人の流れが生み出し、沿線地域の活性化に期待と注目が集まっています。

目的（ねらい）

副都心線の 6 月下旬開業を記念して、地域住民が一体となって祝賀イベントを開催し、地域の活性化を図ります。

雑司が谷 Zōshigaya



図提供：東京メトロ

事業22 副都心線東池袋新駅設置促進事業(新規)

新たな魅力が加わった池袋副都心を
アピール！東池袋新駅へのスタート

事業費 3,000千円

【詳細】都市計画課

事業概要

現在開業している新線池袋駅から雑司が谷駅を
経由し、新宿、渋谷を直接結ぶ、東京メトロ・副
都心線が、H20年6月に開通します。

副都心線の開通を記念して、建設促進豊島区連
絡会の成果を記念する開通記念イベントを行ない
ます。

この副都心線の開通は、(仮)東池袋新駅の早期
開設に向けた運動のスタートでもあります。区と
しても、この新たな目標に向けて積極的に支援を
していきます。

《記念事業内容》

◎6月／記念イベント

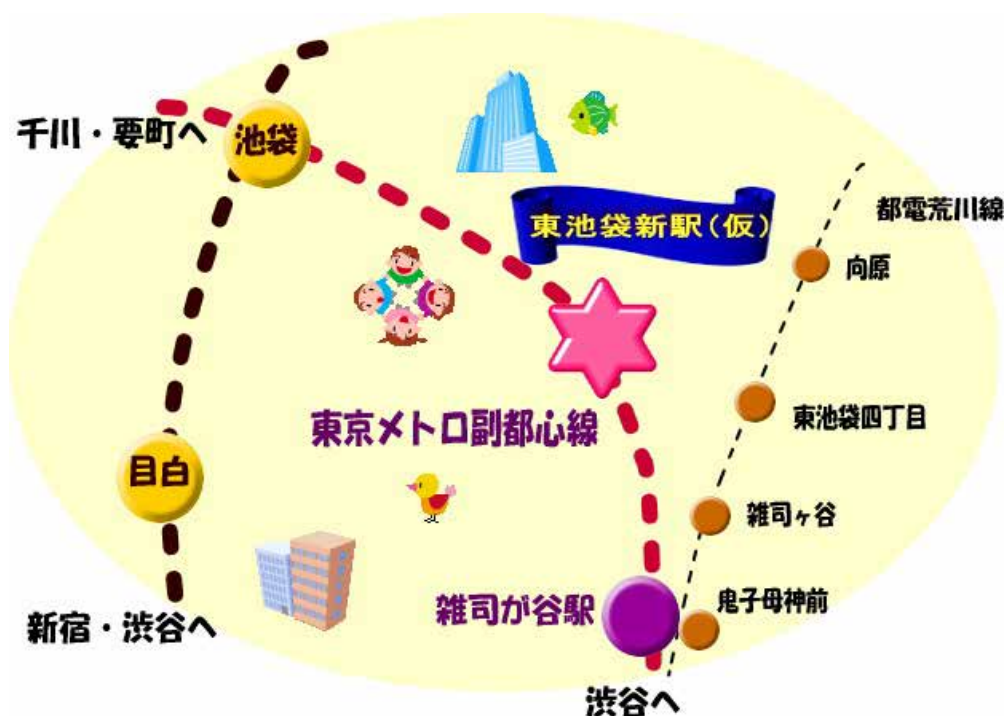
背景(経過)

池袋—新宿—渋谷を直接結ぶ新たな地下
鉄・副都心線が、H20年6月開通し、新駅・雑
司が谷駅もオープンします。

商店会や商工関係者による地下鉄13号線建
設促進豊島区連絡会は、H3年7月に発足し、開
通まで積極的に推進活動を進めてきました。

目的(ねらい)

副都心池袋への新たな交通機関の誕生を祝
し、「池袋」の存在を内外にアピールします。
また同時に、これまでも要望してきた東池袋新
駅の早期開設要請活動を支援します。



副都心線・東池袋新駅のイメージ

事業23 豊島区環境基本計画の策定(新規)

環境都市元年！豊島の羅針盤となる環境計画を策定

事業費 5,034 千円

事業概要

『豊島区環境基本条例(仮称)』(H20年4月施行予定)に基づき、環境保全施策の総合・計画的な推進を図るため基本計画を策定します。

環境審議会を設置・開催し、その答申と区民の意見を参考にし、区の環境保全施策について、目標・体系・取り組みの方向などを定めます。

なお、環境まちづくり基本方針(ヒートアイランド対策)、低炭素地域社会実現推進計画(CO₂削減計画)を重点として盛り込み、環境対策の方向性を明確にします。

◎計画期間／10年間(21～30年度)
見直し5年毎

《実施スケジュール》

- ◎H20年5月頃／審議会立ち上げ
- ◎H21年3月／環境基本計画策定
- ◎H21年度／環境基本計画冊子完成

【詳細】エコライフ課

背景(経過)

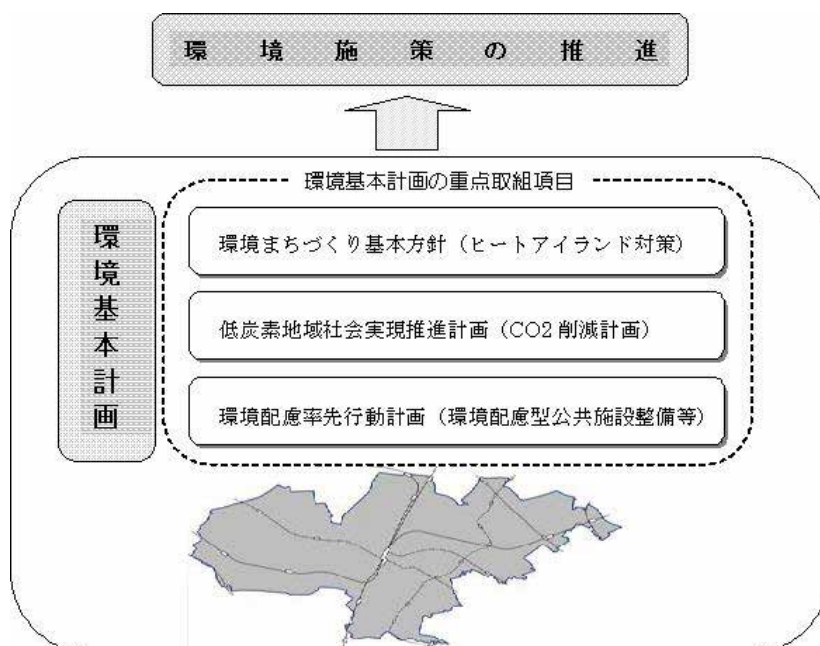
H9～18年度の環境管理計画が終了し、地球温暖化など環境課題への対応が求められる中、既定計画を改訂し、区の環境施策を総合的・計画的に進めるための指針が求められるようになりました。

目的(ねらい)

環境政策は、行政、事業者、区民等が一体となって取り組むことが重要です。

重点的に取り組むべき課題を明らかにし、区の環境対策の方向性を示す基幹的計画を作ります。

環境基本計画



事業24 風とみどりの道構想策定事業(新規)

「クールベルト」を形成し、
ヒートアイランドをSTOP！！

事業費 10,601千円

事業概要

大規模緑地等の冷気を効果的に活用できるよう再開発に伴う幹線道路などの整備を行うことにより、池袋駅周辺地区のヒートアイランド現象の緩和を図ります。

《調査・シミュレーション》

国で行った新宿御苑の冷気の移流調査に準じ、池袋駅周辺で緑化面積の大きい雑司ヶ谷霊園や、学習院大学などにおいて、大規模緑地調査（気温の定点観測等）を実施し、有効性・効果の実証をします。

シミュレーションを行ない、具体的な整備手法等を盛り込んだ「風とみどりの道」構想策定の基礎資料を作成します。

《実施スケジュール》

- ◎ H20 年度中に調査・シミュレーション委託・報告書作成を行なっていきます。

【詳細】エコライフ課



環境に配慮した都市づくりのイメージ(例)

出典／東京の新しい都市づくりビジョン

背景（経過）

大規模緑地等の冷気を誘導する風の通り道をつくることで、ヒートアイランド現象に代表される都市の気温上昇を緩和するとともに、地球温暖化などの環境対策を実現します。

国・都では、大規模緑地からの冷気のしみ出し、建築物群に基づく移流調査による効果の確認を行ないました。

目的（ねらい）

緑地帯の冷気を効果的に活用し、各種の都市再生事業が予定されている池袋駅周辺地区のヒートアイランド現象を緩和します。

事業25 クールシティ推進事業(新規)

クールシティ中枢街区に認定！「池袋駅周辺地区」
ヒートアイランド対策を集中的に進めます！！

事業費 850 千円

【詳細】エコライフ課

事業概要

国のクールシティ中枢街区パイロット事業により認定された「池袋駅周辺地区」内において、補助金を活用して屋上緑化等を集中的に実施し、施設の省エネルギー化を図り、街区全体のヒートアイランド対策を推進していきます。

《協議会の設置及び運営》

官民一体となって効果的な展開を図るため、街区内の大規模事業者を中心とした13法人と区によって構成する協議会を設置し、運営していきます。

《実施スケジュール》

クールシティ中枢街区パイロット事業(H19～23年/5年間)整備予定事業者(企業等)の調整役として、環境省へ補助申請・協議を行なっていきます。

- ◎ 池袋クールシティ推進協議会開催(3回)
(H20年5・9月、H21年1月)

背景(経過)

ヒートアイランド対策を通じた省CO₂化の促進を図るため、環境省がヒートアイランド現象の顕著な都市の中枢部分のなかでも、注目度が高いと考えられる街区をモデル街区として選定しています。

豊島区(池袋駅周辺地区)は、H19年にモデル街区に認定されました。

目的(ねらい)

企業等に対し、国の補助金を活用した屋上緑化や、高反射率塗装などの施設整備を促すことによって、CO₂排出量の削減・ヒートアイランド現象の緩和を図ります。

【クールシティ中枢街区パイロット事業のイメージ】



事業26 マンション資源集団回収事業(新規)

マンションの町会・自治会集団回収への参加を
促進します！

事業費 4,500 千円

事業概要

大規模マンションに対し、町会・自治会集団回収への参加を働きかけ、地域住民の連携強化やリサイクル・ごみ減量を進めます。

《町会参加型》

町会等が行う集団回収に参加していない大規模マンション(例：70 戸以上)について、集団回収への参加を促します。

大規模マンションと町会等が集団回収参加協定を結び、連携して集団回収を行ないます。町会等への報奨金支給後、協定で決められた額が、大規模マンションに支払われます。

報奨金：6 円/kg

《大規模マンション単独型》

町会等による集団回収に参加が困難な大規模マンションが単独で行う集団回収についても、新たに報奨金を支給します。

報奨金：2 円/kg



集団回収の様子



集団回収の旗

【詳細】計画管理課

背景(経過)

ごみ減量と資源の有効活用を積極的に推進するため、S47 年度から町会・自治会等を単位として、紙類(新聞・雑誌・段ボール)、古布、一升びん等を原則として月 1 回収する集団回収事業を行なっています。集団回収実践団体に対しては、区が報奨金を支給する他、リサイクル倉庫や空き缶プレス機の貸与を行なって活動を支援しています。

目的(ねらい)

近年、大規模マンションが次々と建設される中、町会等が行なう集団回収へ参加していないマンションも見られます。そこで、一定規模のマンションに対し、集団回収への参加を促していきます。

町会、自治会、マンション等の団体・区・回収業者が一体となり、効率的に新聞・雑誌等の資源を回収し、資源リサイクルとごみ減量を図ります。

《実施スケジュール》

- ◎H19 年度／集団回収参加協定様式等 作成
- ◎H20 年 4 月／区政連絡会説明・事業 PR
- 5 月／実施町会、マンション説明
- 6 月／登録申請、決定

事業27 生ごみ発電モデル事業(新規)

バイオマス利用の新たなリサイクル手法！
～区施設の生ごみを電気にリサイクルします～

事業費 4,086 千円

【詳細】計画管理課

事業概要

食品廃棄物の再利用方式として注目されている生ごみ(バイオマス)発電で、より環境に配慮したりサイクルシステムを構築していきます。

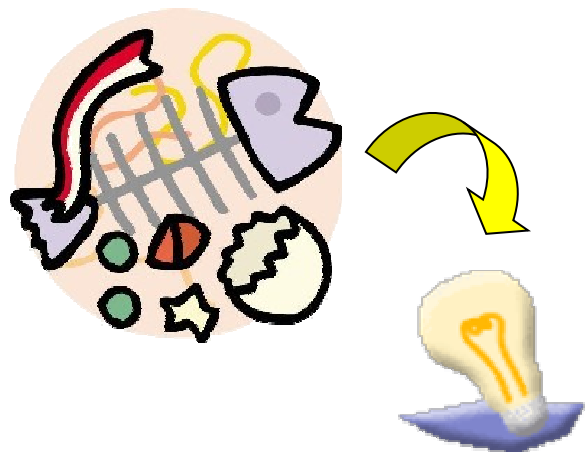
《モデル事業の内容》

スーパーエコタウン (※) 内の「バイオエナジー社」(大田区城南島)と協力し、区の施設から回収している生ごみの一部を活用する生ごみ発電モデル事業を実施します。※スーパーエコタウン…東京都が主導する都市再生と資源循環型社会形成をめざした事業

モデル事業を実施しながら、

- ①搬入手順の変化
- ②経費の変動
- ③リサイクル効率(CO₂削減効果など)の向上
- ④環境対策制度上の優遇措置の研究
- ⑤対象区施設の拡大
- ⑥一般事業系ごみへの拡大の可能性などを検証していきます。

- ◎「バイオエナジー社」におけるリサイクル
自然界に存在する微生物で食品廃棄物を分解し、メタンガスを主成分とするバイオガスを回収し、燃料電池とガスエンジンを組み合わせたコージェネレーションシステムで発電し、電気と熱のエネルギーを生み出すもの。生ごみから電気と熱を作るリサイクル技術です。



背景(経過)

区では、H10年4月から区施設(庁舎、小・中学校、保育園等)から出る生ごみを回収し、有機肥料「豊有機」を生産、販売しています。「豊有機」は、需要が低迷しているため、新たなリサイクルシステムの構築が必要となっています。

国(農水省)では、有機性廃棄物、農林水産資源など生物由来の有機性資源であるバイオマスをエネルギーや製品として総合的に活用し、持続的に発展可能な社会をめざす計画として「バイオマス・ニッポン」を策定しています。

目的(ねらい)

生ごみを環境に配慮しながらリサイクルし、同時に電気と熱を作るなど、エネルギーや製品としても総合的に活用していきます。

事業28 環境にやさしい商店街づくり(2 事業)

お客さまにも、地球にもやさしい商店街をめざします！！

事業費	48,193 千円
拡充分	9,653 千円

事業概要

【詳細】生活産業課

I 環境にやさしい商店街景観づくり事業

(新規/16,000 千円)

環境対策が大きな課題となる中、商業活動に伴う環境負荷をできる限り削減してもらうことを目的に、商店街に対する補助を拡充していきます。

商店街が行う装飾街路灯のLEDランプ化(他自治体の例では従前の水銀灯に比べ電気消費量1/13、電気料金1/5)、レジ袋の使用削減を目的にするマイバック運動。また、資源リサイクル活動などに支援を図ります。

補助の仕組みは、東京都の特定施策推進型商店街事業の適用を受けられる事業については、商店街負担額の半額を、またそれ以外の事業については、現行2/3の補助率を5/6まで引き上げて対応します。

*特定施策推進型商店街事業(都が行う防災・治安・環境・物流・福祉施策に商店街が連携協力して行なう事業へ、補助対象経費の4/5以内を補助)



LED ランプの街路灯

II 商店街装飾灯等電灯料補助事業

(拡充/32,193 千円 (9,653 千円))

区内商店街が振興発展、一般交通の安全及び地域の防犯を目的に設置した装飾街路灯等の電気料金について、区の補助率を定額制から定率制に変更し50%に引き上げます(従来は平均補助率23%)。

背景(経過)

地球温暖化は深刻な状況にあります。商店街にある街路灯は防犯対策の面からも重要ですが、多くは消費電力の多い水銀灯等を使用しています。また、買い物袋は多くの商店ではレジ袋を使用しているのが現状です。今後は、民間企業が進める温暖化防止に向けての取り組みを、地域商店街においても検討する必要があります。

目的(ねらい)

商店街の街路灯をLEDランプに交換することや、マイバック運動を推進することで、地球温暖化対策への貢献や商店街の景観を向上させ、エコ商店街の実現を推進することを目的に実施します。

事業29 区立小・中学校校庭芝生化事業(新規)

地域に還元される芝生を学校と地域が
一体となってつくります！

事業費 37,763千円

事業概要

都の事業補助制度を活用して、小・中学校の校庭の全部または一部を芝生化し、良好な教育環境を整備します。また、芝生の維持管理を通して、環境学習や地域コミュニティの活性化をめざします。

《事業方針》

- ◎学校、保護者、地域住民等で構成する維持管理組織を設立し、芝生化の計画、利用・活用、維持管理を協働で行ないます。
- ◎学校教育上の活用とともに、芝生の維持管理を通じて、学校と地域との連携の円滑化をめざします。

《PRポイント》

計画から維持管理まで、学校、保護者、地域住民で構成する維持管理組織が中心となって進めていくことにより、芝生の活用を通して、地域コミュニティの活性化をめざします。

《実施スケジュール》

現在の校庭の状況で芝生化の可能な学校から開始します。

また、校庭改修等の機会に可能性を調査・検討し実施します。

- ◎H20年度／巣鴨北中学校 芝生化工事
清和小学校 調査・設計
- ◎H21年度／清和小学校 芝生化工事

【詳細】学校運営課



高松小学校芝生化

背景（経過）

区は、H17年度に都の校庭芝生化モデル事業として補助金制度を活用し、高松小学校の一部を芝生化しました。

都は、H19年度から芝生化補助制度を本格実施しています。補助率は、原則補助対象経費の1/2、ただし、地域等との協働により維持管理の仕組みを構築する場合には、全額補助されます。

区は、この全額補助制度を活用し、当面2校の芝生化を行なっています。

目的（ねらい）

ヒートアイランド対策、緑化対策、環境学習への活用などの環境政策を進めていくとともに、芝生の維持管理を通して、地域コミュニティの形成を促します。

事業30 保育ママ事業(新規)

地域で子育てのお手伝い！

事業費 69,434 千円

事業概要

保育ママが日曜、休日、年末年始を除く毎日、午前8時30分から午後5時までの間の8時間(延長にも対応)、子どもを預かります。

◎保育ママ／保育士等の資格または育児経験を有する区民を募集し、講習を実施したうえで区が認定。

◎保育対象／保育園(認可保育所)の待機児のうち、サービスを希望する、区内在住の生後6週間以上3歳未満の子ども。区が保育ママに紹介します。

◎保育方式

①自宅提供型／保育ママが自宅で預かった子どもを保育。預かる子どもは保育ママ1人につき3人まで。

②施設提供型／保育ママのグループ(3人)が、預かった子どもを保育します。子どもは1施設につき9人までです。H20年度に北大塚三丁目仮児童遊園跡に新たに専用施設を設置するほか、保育用に賃貸住宅等を借り上げます(場所未定)。

※①は以前も行なっていましたが、H17～19年度は休止していました。今回②を加えてリニューアルスタートします。

《実施スケジュール》

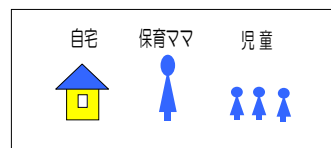
- ◎4月／自宅提供型のサービス開始
- ◎4月以降／賃借による施設提供型サービス1か所開始
- ◎10月／北大塚の施設提供型サービス開始

【詳細】子育て支援課

●保育方式

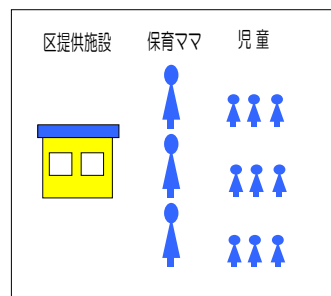
自宅提供型

- ・自宅で保育ママ1人が、預かった児童を保育する。
- ・児童定員は1～3人。



施設提供型

- ・区が提供する施設で保育ママ3人のグループが、預かった児童を保育する。
- ・児童定員は9人まで。



背景(経過)

保育園(認可保育所)への入園を希望しながらも、希望する施設の当該年齢クラスの定員が満員であるために入園できない「待機」状態の家庭が徐々に増加しています。

目的(ねらい)

入園待機児の受け皿の選択肢を増やすことによって、待機児童を減らしていきます。

事業31 診療所併設型病後児保育事業(新規)

医療機関の協力で 病後児保育室を新規開設

事業費 7,856 千円

事業概要

区内の医療機関が新たに併設する施設に対して、病後児保育事業の実施を委託します。現在、病後児保育は、同援さくら保育園の1か所で実施しています。医療機関併設施設のため、病状の変化への対応が期待できます。

- ◎設置機関／田村医院(池袋本町1-45-16)
- ◎対象／区内の認可保育所に在籍している、又は区内在住で区外認可保育所に在籍している1歳以上の未就学児
- ◎定員／4名
- ◎利用日時／調整中。同援さくら保育園では、月～金曜日 午前7時15分～午後6時15分
- ◎料金／調整中。同援さくら保育園では1人1日2,000円
- ◎保育対応／専属の看護師と保育士各1名
- ◎申込／事前に登録した上で、利用日の前日までに電話予約。※「病後児保育の利用が可能」という医師の診断が必要です。

《実施スケジュール》

- ◎H20年度中

【詳細】保育園課

背景(経過)

「保育所併設型」とともに、保育を必要とする病後児の受け入れ先として、体調の変化に適切に対応できる「診療所併設型」の病後児保育が必要とされています。

目的(ねらい)

病気の回復期にはあるものの、集団保育は困難な期間について、病後児専用保育室を有する施設で一時的な保育を行うことができます。

事業32 子育て支援ガイド作成事業(新規)

これで大丈夫！育児に役立つ情報冊子で
子育て支援！！

事業費 1,050 千円

事業概要

「出産予定の家庭」から「義務教育を終了するまでの児童を養育する家庭」までを対象として、「子育て」をテーマに“暮らしに役立つ情報”“子育て家庭が知りたい情報”を掲載します。冊子は、子育て支援課、子ども家庭支援センター、保健所などで窓口配布します。

◎規格/A5版 50頁程度

◎部数/4,000部

◎掲載内容/子育て施設、保育サービス、保健・医療、手当・助成、公園・遊び場などの情報。それに加えて、子ども家庭支援センターの利用者にアンケートなどを実施して、興味ある内容を調査し、掲載します。

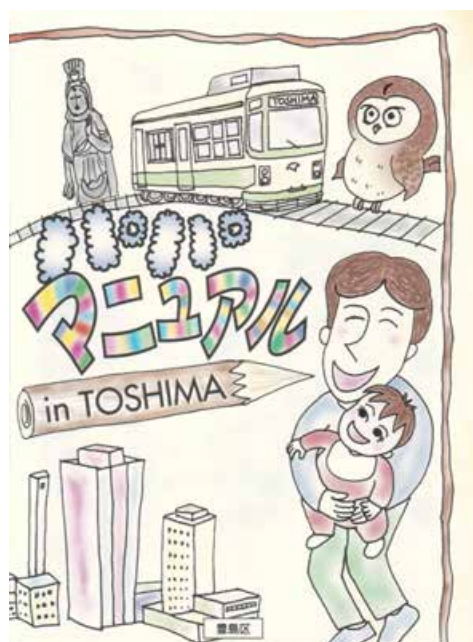
《実施スケジュール》

◎4～6月/情報収集

◎10月/作成

◎11月/配付

【詳細】子育て支援課



H18年に作成したお父さんのための
育児マニュアル「パパマニュアル inTOSHIMA」

背景（経過）

都市化の進展による核家族化、近隣関係の希薄化などにより、育児の知恵の伝承が行なわれなくなっています。また、子どもと一緒に楽しむための情報も発信方法が様々で収集するのに労力を要します。子育て期の親からは「子育てに関するまとまった情報が欲しい」という声が多数寄せられています。

目的（ねらい）

子育て中の家庭を支援するため、知って得する便利な情報冊子を作成します。

事業33 出産前後の育児環境支援(2事業・新規)

育児不安の解消と赤ちゃんの健やかな発育を支援します！！

事業費

8,257 千円

事業概要

I ウェルカム赤ちゃん事業 (新規/210 千円)

詳細：子育て支援課

子ども家庭支援センターで、初産の妊婦の方が実際に赤ちゃんとふれあう体験や、先輩ママの話聞く機会を提供します。

- ①子育て体験／おむつ替えやだっこ体験をしたり、子どもと遊んだりします。
- ②子育て講座／子育ての体験談やトラブル対処法についての講座です。
- ③先輩ママと初産の妊婦との交流／子育てについて話を聞いたり悩みを相談したりします。

※①～③の合計で年間 20 回程度を予定しています。

- ④妊婦向け絵本プレゼント／上記①～③に参加した方に、赤ちゃんとのコミュニケーションに役立つ絵本『いないいないばあ』（作／松谷みよ子、絵／瀬川康男）などを配付します。配付冊数は 200 冊を予定しています。

《実施スケジュール》

- ◎4 月から子育て体験ツアー開始予定

II こんにちは赤ちゃん事業 (新規/8,047 千円)

詳細：健康推進課

生後 4 か月までの乳児がいる全ての家庭を保健師や、助産師が訪問し、育児支援を行なうとともに、必要な子育て情報を提供します。また、乳児のいる家庭と地域社会をつなぐ最初の機会とすることで家庭の孤立化を防ぎ、健全な育児環境の確保に努めます。

- ①赤ちゃんの体重測定、母乳やミルクの飲ませ方、スキンケアなどの発育状況や育児環境を確認し、不安に対する具体的な対応を行ないます。
- ②産後の母親の心と体の健康について把握及び相談・助言を行ない、家族全員の健康づくりを支援します。
- ③子育てに役立つ様々なサービス情報を提供し、必要なときに適切なサービスが受けられるように支援します。



西部子ども家庭支援センター(千早 4-6-14)の事業

背景(経過)

核家族化が進み、近隣との関わりも希薄になっている昨今、子育てに対して具体的なイメージを持たず、不安を抱えている妊婦や、出産後育児へのストレス、情報不足などのため悩んでいる母親がおり、家庭での孤立化等が問題となっています。

目的(ねらい)

出産前後の育児不安の解消と育児家庭のネットワーク化を図るために実施します。

事業34 小・中学校改築の前期詳細計画策定(新規)

計画的・効率的に
学校改築を進めていきます！

事業費 2,842千円

事業概要

「豊島区立小・中学校改築計画(案)」は、H20年度からH49年度までの30年間で10年ごとに、前期・中期・後期の3期に区分して改築校数を示しています。前期の改築対象6校のうち、H20年度に基本設計を行なう西池袋中以外の5校について、改築建物の想定、改築手法、仮校舎などの詳細計画の検討を進めます。

【詳細】学校運営課

背景(経過)

学校施設の老朽化の進行と学校を取り巻く社会情勢への変化に対応するために、「豊島区立小・中学校改築計画(案)」を作成しました。現在、前期計画の改築校となっている西池袋中学校では「西池袋中の改築等を考える会」が設立されており、考える会として提言する基本構想の作成に向けた検討・協議を行なっています。

目的(ねらい)

前期(H20~29年度)の改築対象5校について、改築建物の想定、改築手法、仮校舎などの詳細計画の検討を進めます。

《改築計画(案)》

計画	前期計画	中期計画	後期計画
期間	H20~29年度	H30~39年度	H40~49年度
対象校数	7校	10校	11校
改築校数	6校 (統合減1校)	10校	11校

《前期(H20~29年度)計画(案)》

前期計画の改築校6校は、適正規模及び適正配置による統合新校、仮校舎確保可能校、校舎等施設の老朽化及び緊急度を考慮して設定しました。

《実施スケジュール》

- ◎H20年2月/改築計画(案)パブリックコメント実施
- ◎3月/改築計画(案)学校説明会(前期対象校)
- ◎5月/改築計画の策定
- ◎6月以降/前期詳細計画の検討
- ◎前期計画(案)工事スケジュール

No.	学校名	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29
		2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
1	西池袋中	基本設計	実施設計	(仮校舎:旧真和中)							
2	目白小			基本設計	実施設計	(仮校舎:旧真和中)					
3	池袋第三小					基本設計	実施設計	(仮校舎:旧真和中)			
4	池袋中					基本設計	実施設計	工 (現校舎使用)			
5	池袋第二小							基本設計	実施設計	工事	工事
	文成小							仮校舎(池袋第二小・文成小統合新校)			
6	巣鴨北中							基本設計	実施設計	工事	工事
仮校舎[旧真和中]		設計	工事	西池袋中仮校舎		目白小仮校舎		池袋第三小仮校舎		—	

事業35 西池袋中学校建替え事業経費(新規)

教育・社会の変化に応じた学校環境を地域と共につくります
～豊島区初 地域との協働による学校建て替え事業～

事業費 300,783 千円

事業概要

豊島区では、H12年からこれまで3校の改築を実施しましたが、今回の西池袋中学校建替え事業では、地域、学校、豊島区及び教育委員会をメンバーとした「西池袋中の改築等を考える会」が設立され、基本構想(基本計画)の作成に向けた検討・協議を行なっています。

地域との協働による基本構想(基本計画)の作成は、豊島区の学校改築では初めての試みです。

「西池袋中の改築等を考える会」から区へ基本構想(基本計画)が提言された後、区としての具体的な基本計画をまとめ、基本設計への反映に向けた検討を進めていきます。



西池袋中の改築等を考える会での検討

《実施スケジュール》

- ◎H20年3月／基本構想の提言
(西池袋中の改築等を考える会から)
- ◎H20年度／基本設計
- ◎H21年度／実施計画
- ◎H22・23年度／建設工事

【詳細】学校運営課

背景(経過)

西池袋中学校は、体育館(S34年度築)がH21年度、校舎(S35年度築)がH22年度に築50年を経過します。H17年度の道和中・真和中統合の際に耐震・改修工事を実施しましたが、給排水設備、機械設備、電気設備等の大規模な改修は行なっていないため、老朽化は著しく進行しています。

また、教育内容・方法の多様化や社会情勢の変化に対応して、安全・安心で快適な学校環境を確保する必要があるため、西池袋中学校の改築を行ないます。

目的(ねらい)

学習の場、生活の場としての安全・安心で快適な学校環境を確保するため、教育内容や方法、社会情勢の変化に対応する学校施設、生涯学習や地域活動等のまちづくりの拠点として地域に開かれた学校施設づくりを推進します。

事業36 小中学校国語力向上事業(新規)

23区初！『国語力向上キット』の開発！！ ～児童・生徒の国語力向上をめざして～

事業費 19,898 千円

事業概要

子どもたちの学習活動の基盤となる国語力は、国語科を核として全ての教科で身に付けさせる必要があります。そこで、豊島区では、「国語力向上キット」を開発し、児童・生徒の国語力の向上を図ります。また、区立全小・中学校で「国語力向上キット」の教材等を共有化することで、教材開発にかかる教員の多忙感の解消に努めます。

〈国語力向上キット〉

児童・生徒の国語力向上をめざし、豊島区オリジナル「国語力向上キット」を開発します。

- ◎国語科と他教科等とを関連付けた国語力向上のための年間指導計画作成ソフトの開発
- ◎言語活動を取り入れた各教科の授業づくりに向けたアイデアの提示
- ◎様々な情報を分析・評価して自分の考えを表現したり改善したりする学習活動例の紹介
- ◎クリティカル・リーディング(批判的読み)を取り入れた「読書紹介マニュアル」の作成
- ◎豊島区教育委員会推薦図書を活用した児童・生徒対象のイー・ラーニングの開発 等

〈プロジェクト・チームによる「国語力向上キット」の開発〉

小・中学校教員によるプロジェクト・チームを組織し、「国語力向上キット」を開発します。教員自らが開発することで、教員自身の国語力向上リーダーとしての資質向上をめざします。また、「国語力向上キット」を活用した研修会を実施することで、教員の指導力向上を図ります。

〈実施スケジュール〉

- ◎H20年4月～21年1月／「国語力向上キット」の作成
- ◎H21年度から22年度の新学習指導要領への移行期間に普及を図ります。

【詳細】教育指導課



授業風景 (イメージ)

背景(経過)

「豊島区教育ビジョン」では、「確かな学力の育成」の中で、重点項目として国語力向上を挙げています。一方、OECDが実施したPISA調査の結果や文部科学省「全国学力・学習状況調査」の結果から、思考力・判断力・表現力等の基盤となる国語力の低下が示されていることから、国語力向上の必要性が求められています。

区では、「国語力向上キット」の開発を通して、H23年度から実施される予定の新学習指導要領を見据えた準備をしていきます。

目的(ねらい)

国語科を中心に、各教科等における言語活動の充実を図ることにより、児童・生徒の国語力の向上を図ります。また、「国語力向上キット」の活用を通して教員の指導力の向上を図ります。

事業37 区立幼稚園児幼児期道徳性育成事業(新規)

道徳性の育成は幼稚園から！
区立幼稚園が積極的に取り組みます！！

事業費 10,235 千円

事業概要

「道徳性の育成」を幼児教育の重要な課題に位置づけ、すべての区立幼稚園において、あいさつや言葉遣いなどの道徳性育成に取り組みます。

《道徳性育成の専任非常勤教諭の配置》

道徳性の育成に高い識見を有する人材を、専任として、1園1人配置します。

《道徳性育成カリキュラムの作成》

大学教授、幼児教育専門家、区立園長、指導主事などにより、道徳性育成カリキュラムを作成し、幼稚園教育課程に組み込んで取り組みます。

《家庭・保護者・地域との連携》

園の取り組みを周知し、啓発するとともに、家庭・保護者・地域と連携し、総合的な教育の向上を図ります。

《実施スケジュール》

- ◎H19 年度／専任非常勤教諭の募集
- ◎H20 年 4 月／専任非常勤教諭の配置
- ◎H20 年度中／道徳性教育カリキュラムの作成
- ◎H21 年度以降／家庭・地域等との研修会・交流会の実施

【詳細】教育指導課

背景（経過）

現在、子どもたちによる問題行動の多くが、道徳性の欠如にあると言われていています。道徳性を形成していく上で模範となるのは、保護者や地域の大人たちです。しかし、「家庭」、「学校」、「地域社会」の教育力について様々な課題が指摘されています。

区では、「豊島区教育ビジョン」(H19 年 3 月)に豊かな人間性育成を挙げ、小・中学校において、道徳公開講座などの道徳教育の充実を図ってきました。

目的（ねらい）

幼児期から取り組むことによって、次世代を担う子どもの道徳性を早期から形成し、心豊かな子どもを育成していきます。

また、道徳性の育成を幼児期教育の新たな使命に掲げることによって、公立幼稚園に対する信頼を向上させていきます。

事業38 高齢者元気あとし事業(新規)

元気高齢者は社会参加で一石二鳥、
地域貢献で健康増進！！

事業費 1,084 千円

事業概要

区内における高齢者の介護支援活動等の実績を「ポイント」制にして評価し、希望によりポイントを換金し交付することで、実質的に自身の介護保険料や介護サービス利用料の負担軽減ができるものです。

◎対象者（登録会員）／65歳以上（介護保険第一号被保険者）。管理機関への登録後、原則無償での活動が対象です。（想定登録者数約500人）

◎活動内容（予定）／区が指定する介護保険施設等での介護補助作業（配膳、レクリエーション支援、散歩、外出補助、話し相手など）、地域支援事業（筋力アップ教室事業等）、キャラバンメイト（認知症普及啓発事業）

◎管理機関／豊島区社会福祉協議会（予定）

◎活動評価／活動記録手帳に、指定機関（施設等）が活動1回につき1スタンプを押印。スタンプの数に応じて年間最大5000ポイントを付与する。（1ポイント1円）

《実施スケジュール》

◎10月～



認知症予防サポーター養成講座

【詳細】高齢者福祉課



脳トレゲーム大会

背景（経過）

高齢化の進展により、介護保険制度における要介護者が増加するとともに、医療費や介護保険料等の負担は今まで以上に大きくなります。介護予防事業の実施に加え、高齢者の介護支援活動等を通じた社会参加、地域貢献活動を促進することで、高齢者を積極的に支援する施策が求められています。

※区の高齢者人口は約49,125人（H20年1月）

※介護保険料は基準額（年額）52,359円（H18～20年度）。合計所得金額等により7段階。

目的（ねらい）

高齢者の介護支援等の地域活動を通じた社会参加や地域貢献を支援することで、地域活動へ参加する元気高齢者を増やすとともに、地域社会の活性化を目的に実施します。

事業39 介護保険不正事業者対策(2事業)

高齢者を守ります！断固不正は許しません！
悪質業者を徹底的に排除します！！

事業費	12,224 千円
拡充分	2,593 千円

事業概要

【詳細】介護保険課

I 介護保険不正事業者対策事業

(新規/1,737 千円)

法令・指定基準違反、介護報酬の不正請求や不適切な介護サービスの提供が明らかな場合、介護保険制度への信頼維持及び利用者保護の観点から、悪質な事業者等を排除するため、機動的な指導・監査を実施します。

区はH18、19年度に1件ずつ、計2件の事業者の指定取り消し処分を行なっています。

◎必要な機器を購入し、指導・監査体制強化に活用を図ります。

II 給付適正化対策事業

(拡充/10,487 千円(2,593 千円))

認定調査データと給付実績の突合を行える介護給付適正化システムを導入し、事業者等による介護報酬の不正請求や、不適切なサービス提供を防止します。

これまで、身体状況が寝たきりであるにもかかわらず、歩行補助つえの請求があるなど、認定情報から、不適切と思われるものが見られました。区は書類等の確認や時には実態調査を行い、指導してきましたが、システム導入により、時間短縮が図られます。

◎20年度システム導入

背景(経過)

昨年、訪問介護大手会社による不正問題が発覚し、大きな社会問題となりました。このため、厚生労働省は、国や自治体が介護事業者の本社に立ち入り調査し、是正勧告・命令できるようにするなど規制を強化する方針を固め、本年の通常国会に介護保険法の改正案を提出する予定です。

区では、H19年度から介護保険課に監査を担当する組織を設置して、介護保険制度の根幹を揺るがす事業者の不正についての指導・監査体制を強めています。

目的(ねらい)

介護保険事業者の不正等に適切に対応することで、介護保険料の基礎となる介護保険事業費を適正に給付することを目的に実施します。



事業40 障害者の就労支援(3事業)

障害者の働ける環境を整備して、
幸せに暮らせる世の中を！！

事業費	12,698 千円
拡充分	7,079 千円

事業概要

【詳細】 障害者福祉課

I 民間事業所経営診断補助事業

(新規／4,320 千円)

東京都による障害者施策推進区市町村包括補助金を活用し、民間事業所が工賃アップに向けて、経営コンサルタントの利用を行なった場合、1事業所あたり経費（上限2,400千円）の9割にあたる2,160千円までを補助します。

売れる商品の開発や、就労に対する意欲を喚起するため、経営コンサルタントの利用によるアドバイス、ノウハウの活用を図ります。



巣鴨地藏通り商店街で自主制作品販売

II 民間福祉施設収入補填補助金

(新規／2,640 千円)

障害者福祉サービス事業所等の利用者が区立障害者就労支援センターを通じて就労した場合に、施設が得られるはずであった収入の6ヶ月分を限度に補助します。

III 実習奨励金の拡充

(拡充／5,738 千円 (119 千円))

授産施設に通所する障害者が区立障害者就労支援センターを通じて実習を行なった場合に実習奨励金を支給します。区は、障害者の就労を促進するため区内各課で実習を実施しました。今後、積極的に周知を行ない、受入職場を増やしていきます。

◎実習場所／区役所：一日700円、企業：一日1,000円

◎実習内容 印刷・丁合い作業、掃除など

背景（経過）

厚生労働省は、全国の福祉施設で働く障害者のH18年度の月額工賃は、全国平均で12,222円と発表しました。政府は今後5年間で工賃を倍増する目標を掲げ、また、各都道府県では倍増計画を策定し、施設ごとの工賃と目標工賃をホームページなどで公表する予定となっています。

区内には17か所の民間の障害者施設（授産所、作業所）があり、区は施設のフォローアップや障害者を支援する様々な取り組みを行なう必要があります。

目的（ねらい）

障害者福祉サービス事業所等と障害者への支援を図り、就労意欲や工賃アップを図ります。

事業41 福祉基盤整備事業(新規)

障害者が自立した生活を送るために
グループホームの整備に補助します。

事業費 6,000 千円

事業概要

社会福祉法人等が東京都の「障害者通所施設等整備費補助」事業を活用してグループホーム・ケアホームを設置、改修を行なう場合、対象経費に補助率(1/8)を乗じた金額(限度額300万円)を区が上乘せし、補助します。

区はH20年度から4か年で8か所の新たなグループホーム整備をめざします。

*H20年1月現在のグループホームの数
／知的障害者：10 精神障害者：6

【詳細】障害者福祉課



グループホームの食堂(談話室)で寛ぐ利用者

背景(経過)

障害者自立支援法の施行により、知的障害者及び精神障害者の社会復帰や地域での自立した生活を積極的に進める取り組みが求められています。しかしながら、保護者の高齢化、障害者に対する偏見等から、障害者が安心して生活できる生活環境が十分ではありません。

目的(ねらい)

多くの障害者が、地域において自立した生活を送るため、事業者等のグループホーム整備経費の負担軽減を目的に実施します。

事業42 ターミナル駅前滞留者対策訓練の実施(新規)

帰宅困難者 85,000 人への対応を！！
避難誘導マニュアルの作成！！

事業費 10,500 千円

事業概要

東京都と共同して池袋駅前滞留者対策訓練を実施します。訓練にむけ、警察、消防、百貨店や地下街、ホテル、鉄道ほかライフライン各社等が加わって「ターミナル駅連絡協議会」を立ち上げます。協議会では、各事業者の役割や、必要な装備について認識を共有化し、災害発生時の各機関の連携・協力体制を明確に示す避難誘導マニュアルを作成します。

《訓練に向けた検討課題》

- ◎池袋から徒歩で帰宅する人への支援
- ◎帰宅が困難で帰宅できない人への支援
- ◎救護体制や、不足が見込まれるトイレなど健康な避難者の対応

《実施スケジュール》

- ◎H20 年中／「ターミナル駅連絡協議会」立ち上げ
- ◎H21 年 1～2 月／ターミナル駅前滞留者対策訓練実施

【詳細】危機管理担当課



通勤時間以外にも大変込み合う池袋駅

背景（経過）

東京都地域防災計画によると、M6.9 を想定した東京湾北部地震の際、池袋駅で滞留し、帰宅困難になるのは約 85,000 人と想定されています。今後は、区民を対象にしていた支援に加え、帰宅困難者に対する対策が求められています。

目的（ねらい）

帰宅困難者の支援は、行政だけでは困難です。交通機関の復旧まで 3 日はかかると考えられており、発災時の避難誘導等、地域や事業者、大学等の協力体制の基礎を作ります。

事業43 地域防犯力向上設備助成事業

マンション内の防犯カメラなどの 防犯設備経費を補助！！

事業費 11,000 千円

事業概要

マンション内の非常階段やエレベーターホール、駐車場等を対象に防犯カメラや防犯灯、防犯アラーム等を設置する場合、その経費の一部を補助します。

マンションに居住する方々が自ら防犯パトロールを実施したり、掲示板等を利用して各種防犯のお知らせを掲示することによりマンションを防犯に関する情報発信の拠点とするなど、地域防犯力向上に対する取り組みを支援していきます。

《補助の条件》

- ◎マンションの管理組合等のなかで防犯担当者を指定する。
- ◎マンション内外の掲示板等に区や警察署が作成する防犯資料を掲示するなど、防犯に関する情報発信の拠点とする。
- ◎マンションに居住する方々が所有する自転車の前かご部分に、区が提供する「安全安心パトロールプレート」をつける。
- ◎マンションに居住する方々が、花への水遣りや買い物、犬の散歩等といった自由な機会を捉え、防犯腕章をつけた防犯パトロールを可能な範囲で実施する。



モデル実施で設置した巣鴨小学校の防犯アラーム

【詳細】治安対策担当課

背景（経過）

常に一定の防犯力を維持し続けるために、H19年度に大塚駅周辺で取り組んだ都の地域防犯モデル事業を参考に、地域の防犯に対する取り組みを支援していく必要があります。

目的（ねらい）

マンション内に防犯設備を設置することを通して、マンションに居住する方々の地域の安全安心への関心を高め、マンション周辺全体の地域の防犯力向上を推進します。



- ★子どもにも押しやすいボタンの高さ
- ★操作が簡単
- ★夜間でも、大きく目立つ赤色灯

事業44 橋梁点検調査

安心・安全なまちづくりに、橋の点検で危険を防止！

事業費	3,500 千円
拡充分	3,500 千円

事業概要

区が管理する14の橋（H20年度撤去予定の堀之内人道橋を除く）について、現状の実態把握及び補修計画作成のために点検調査を2ヵ年で実施します。調査を受けて安全面で憂慮される事案が確認された場合には緊急に補修工事等を行いません。

【詳細】道路整備課



池袋大橋

【点検橋梁一覧】

橋名	所在地	架設年度
宮下橋	巣鴨 3-25～巣鴨 1-36	H3 年度
江戸橋	巣鴨 3-1～南大塚 1-32	H13 年度
空蟬橋	北大塚 2-3～東池袋 2-34	S41 年度
栄橋	北大塚 3-6～東池袋 2-34	H7 年度
西巣鴨橋	北大塚 3-8～東池袋 2-49	S34 年度
宮仲橋	上池袋 1-7～東池袋 2-59	H7 年度
池袋本町四丁目歩道橋	池袋本町 4-29	S57 年度
源水橋	高田 3-22～高田 3-3	H11 年度
高塚橋	高田 3-9～高田 3-11	H13 年度
池袋南交差西側歩道橋	西池袋 2	H3 年度
南池袋一丁目歩道橋	南池袋 1	S38 年度
池袋大橋	東池袋 1-49～池袋 1-4	S40 年度
池袋人道橋	東池袋 1-49～上池袋 2-5	H10 年度
花の橋	目白 2-28～目白 3-17	H16 年度

《実施スケジュール》

- ◎H20～21 年度／14 の管理橋梁の点検調査実施
- ◎H22 年度／3 橋（池袋大橋、西巣鴨橋、空蟬橋）の架け替え実施計画作成と決定

背景（経過）

区では、H6 年度に既設の管理橋梁 12 橋について、震災点検を実施し、13 年度にはそのうちの老朽化した橋梁 5 橋の点検調査を実施しています。しかし、近年の相次ぐ橋梁の崩壊事故を受けて、国土交通省や東京都より橋梁管理者に対して定期的な点検による健全度把握と安全管理が指摘されています。そこで、区民の安全、安心な生活を確保するため、橋梁点検調査を実施します。

目的（ねらい）

区民等の安心、安全な生活を確保するために、区の管理橋梁の点検調査を実施し、補習及び改修計画の参考とします。

事業45 大学との協働による「としまコミュニティ大学」

街全体をキャンパスに！
地域自治力の向上に大学と連携！

事業費	6,341千円
拡充分	4,767千円

事業概要

H19年11月19日、「豊島区と区内大学との連携・協働に関する包括協定」締結に基づき、「としまコミュニティ大学」が開校しました。

12月から1月にかけて連携大学による「紹介講座」を開催してきましたが、4月からは内容を充実させた多彩なプログラムを本格実施します。

1 多彩なプログラムの実施

①人づくり(地域活動の人材育成)②活動づくり(活動開始への支援)③地域づくり(まちづくりの実践)で構成するプログラムを実施します。

具体的には、地域課題を学び興味の幅を広げるための「課題発見プログラム」や、自分に合った地域課題を深く知るための「課題追求プログラム」などがあり、各大学の特色を活かした内容で開催します。

2 運営委員会の設置

学識経験者(各大学)、公募区民等で構成された運営委員会を設置し、区民ニーズを捉えた効果的なプログラムを検討します。

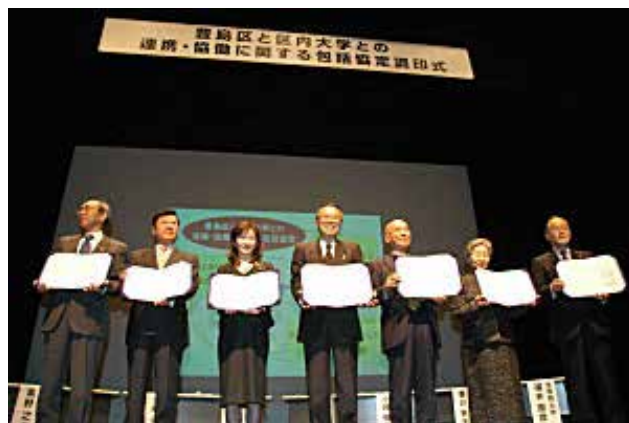
《連携大学(五十音順)》

学習院大学(目白1-5-1)、女子栄養大学(駒込3-24-3)、大正大学(西巢鴨3-20-1)、帝京平成大学(東池袋2-51)、東京音楽大学(南池袋3-4-5)、立教大学(西池袋3-34-1)



としまコミュニティ大学紹介講座(学習院大学)

【詳細】学習・スポーツ課



「豊島区と区内大学との連携・協働に関する包括協定」調印式

背景(経過)

区は単身世帯比率が極めて高く、少子・高齢化の進展も23区中トップクラスにあります。地域ニーズは多様化、複雑化しており、「地域力の再生」「地域活性化」の要請に応える「まちづくりリーダー」が必要となってきました。そこで、地域に埋もれている潜在的な人材を育成するために、区の知的財産といえる大学と協働して、様々な講座プログラムを展開する「としまコミュニティ大学」を開校することになりました。

目的(ねらい)

講座受講による個人の知識習得に留まることなく、地域社会の課題に気づき、考え、行動する「まちづくりリーダー」を育成することを目的としています。

事業46 区民ひろば運営協議会自立支援事業(新規)

区民ひろばが地域の情報収集・発信センターへ

事業費

946 千円

事業概要

区民ひろばの地域の情報センターへの成長を期待する声が多く寄せられています。

区民ひろば運営協議会には地域の多様な主体が参画しているため、地域情報の収集・発信の担い手として最適であると考えられます。

このため、各地区の運営協議会が、独自のホームページや広報紙を制作し、積極的に地域情報を発信するための環境整備を進めます。

◎パソコン及びプリンター等を購入インターネット環境の整備

《実施スケジュール》

◎H20 年度/3 か所の区民ひろばでパソコン等の購入及び設備工事、プロバイダー契約、ウイルス対応ソフト更新

◎H21 年度以降/順次導入



運営協議会が作った「ひろば通信」

【詳細】地域区民ひろば課



区民ひろば南大塚の事業から

背景（経過）

H18 年度から、年齢や使用目的によって制限のあった既存施設を地域の多様な活動の拠点として有効に活用できるよう「区民ひろば」に再編しています。また、地域の多様な主体が参画する運営協議会による施設の自主運営をめざしています。

目的（ねらい）

運営協議会が主体となって区民ひろばを運営するための環境整備を進めます。

事業47 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)推進事業(新規)

中小企業でも子育て・介護がしやすい環境づくりへ

事業費 472 千円

事業概要

中小企業の経営者を主な対象として、ワーク・ライフ・バランスに関するフォーラムを開催します。相対的に女性従業員の比率が高い中小企業では、女性の活躍を促進する上から、ワーク・ライフ・バランスを推進する意義は大きく、区内企業の有能な人材の確保と、魅力的で働きやすい企業の職場づくりも期待されます。

フォーラムでは、ワーク・ライフ・バランス研究者の基調講演及び、区内で取り組み始めている企業等をパネリストとして招き、経営者や従業員、区民の啓発を図ります。

《実施スケジュール》

◎10月/8 都県市ワーク・ライフ・バランス月間に
実施

【詳細】男女平等推進センター



男女平等推進センターで行なった講座

背景(経過)

少子高齢化が進む現代、事業主が率先して、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)に理解を深め、社会をあげて仕事と子育てや介護などの両立がしやすい環境を作ることが求められています。

しかし、特に中小企業においては、取り組み体制が整っていない状況にあるため、事業主への周知、啓発を行なうことが必要となっています。

目的(ねらい)

男女を問わず、働く人が仕事と家庭生活(子育て、介護等)との両立が可能になり、企業にとっては優秀な人材の確保につなげていきます。

事業48 区民税の電話納付案内業務委託

アウトソーシングで、うっかり忘れの段階
ですくいあげ！納付率アップを！！

事業費	22,964 千円
拡充分	8,789 千円

事業概要

滞納額が大きくなる前の段階から、納付の案内と
勧奨、相談のための来庁の案内をすることによって、
滞納への移行を防いでいくことが必要です。そのた
め、電話による納付案内を民間委託により集中的
に実施していきます。

H19 年度現在、アウトソーシングによる電話催告
をしているのは、23 区で練馬区のみです。

単純かつ簡便で、多大な効果が期待できる電話納
付案内業務を委託することで、集中的な取り組み強
化を図ります。職員は、累積滞納処分業務に力を入
れ、総合的に滞納整理業務を進めていきます。

◎業務件数／年間約 35,000 件

現年分の未納者に対して電話納付案内を重点的に
実施した後の日曜窓口では、前年同月 100 万に満た
なかった収納額が、900 万円を超え、電話による納
付案内が有効であることが明らかになっています。

【詳細】税務課



電話による納付案内のイメージ

背景（経過）

H19 年度の滞納繰越分調定額の内、H18 年
度の現年課税分未済額決算が半額以上を占
めています。現年分を効率的に徴収するこ
とが、滞納額縮小への鍵になります。現年
度分の滞納は、うっかり忘れていたケー
スが多く、早期のうちであれば容易に納付
できる額でも、放置するうちに額が嵩み、支
払うことが困難になります。また、H19 年
の税源委譲によって住民税額が増えたため
に納付低下が懸念されています。

目的（ねらい）

電話で呼びかけを行なうことで、スム
ーズに自主的納付を促し、滞納繰越になる件
数・金額を抑えます。

事業49 豊島区狭小住戸集合住宅税の調査・検討(新規)

ワンルームマンション税導入から5年、制度を見直し

事業費 700 千円

事業概要

税施行後5年間の狭小住戸、ファミリー住宅の建設状況、他区の建設状況等を分析しながら、本条例の可否、制度変更の必要性の有無等の調査・検討を行なうため「税制度調査検討会議」を設立します。

検討会議には、学識経験者と区職員を構成委員とし、検討結果は報告書としてまとめ議会に報告をします。

《実施スケジュール》

- ◎4月／税制度調査検討会初回開催
- ◎11月／検討会の報告書を議会に提出

【詳細】税務課

背景(経過)

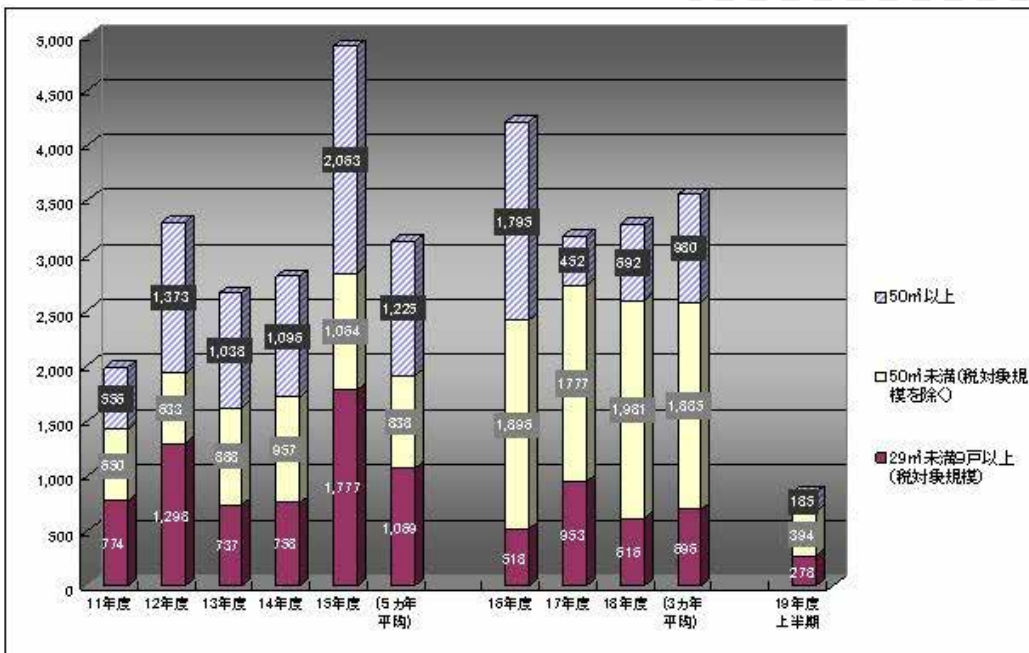
豊島区では全国に先駆けて法定外普通税「豊島区狭小住戸集合住宅税」(通称 ワンルームマンション税)をH16年に施行しました。新税の導入時様々な見解があったため、施行後5年ごとに、条例の施行状況、区内の住宅供給状況等を検討し、必要な措置を講じることとしていました。

目的(ねらい)

この税は、狭小なワンルームマンションの建築を抑制し、ファミリー向けの良質な住宅を増やしファミリー世帯を誘致することを目的としています。狭小住戸の建設抑制効果を分析し、税の継続の可否、制度変更の必要性の有無を調査します。

●豊島区内における集合住宅着工戸数(建築確認ベース)の推移

—平成19年9月30日現在—



事業50 「豊島区ベストパフォーマンス金の鼻賞」の選定と表彰(新規)

改革・改善に貢献した職員を表彰！
さらなる区民サービスアップのために！！

事業費 1,000 千円

事業概要

年に一度、特段の成果をあげた事業、職場における改革・改善的取り組みや、職員による職務に関連したためざましい活動・取り組みを「豊島区ベストパフォーマンス」として表彰します。

審査会による選考は、①区民満足度の向上 ②協働の推進 ③先進的事業への挑戦 ④業務改善（効率化、コスト削減） ⑤懸案課題の解決 の観点に基づいて行ないます。

ベストパフォーマンス賞のなかで、①特段の努力や工夫を要した ②区内外に大きな影響を与えた ③区のイメージアップに大きく貢献した のいずれかの点で顕著な功績が認められるものを「金の鼻賞」「銀の鼻賞」に選定します（ふさわしいものがなければ、該当なしとします）。賞に選定された事業や取り組みは、職員に公表し、区長が表彰します。また、取り組みを行なった課、係等に記念品を贈ります。

《記念品経費》

- ◎金の鼻賞／@300,000×1 チーム
- ◎銀の鼻賞／@200,000×2 チーム
- ◎ベストパフォーマンス賞／@50,000×6 チーム

都内他の自治体では三鷹市が類似の表彰を行なっています。



区が調整役になったびっくりガードの落書き消し

【詳細】人材育成課



豊島区の発案から実現した再生自転車の海外譲渡

協議会を立ち上げスカウト排除のパトロールを実施

背景（経過）

表彰というと目立った業務に目が行きがちですが、住民サービスを支えているのは、多くの職員による地道な仕事です。仕事の質を高めるような努力や工夫は常になされていますが、それが評価される機会は多くはありません。がんばった職員がやりがいや達成感を感じると同時に、周囲に良い波及効果を生むような、優れた成果や取り組みに対する表彰制度を創設します。

目的（ねらい）

職務における職員の努力・工夫を積極的に評価し、またそれを周知することによって関心を高め、モラルの高い活力ある組織風土をつくります。

平成20年度豊島区予算案重点事業

平成20年2月／豊島区政策経営部広報課

〒170-8422 豊島区東池袋1-18-1

TEL (03) 3981-1111 (代表)